くみあいNEWS

第１５２４２号
2021年2月26日(金)
発行責任者
日本製鉄和歌山労働組合
組織教宣部
WAKAYAMA WORKERS' UNION

組合ＨＰ：http://nssmwu.jp/　　代表内線番号　和歌山地区(本部)(54)－3590
堺地区　652990／海南地区(54)－5555

エネルギー支部の「福江（ふくえ）　敦志（あつし）」さんが黄綬褒章（おうじゅほうしょう）を受章されました！

プロフィール



生年月日：1956年10月25日生まれ（64歳）
経　　歴：1975年に住友金属株式会社（現日本製鉄株式会社）へ入社以降、エネルギー工場一筋で勤務され、ガス・蒸気・水等、様々なエネルギー業務に従事。2018年には「現代の名工」を受賞、2020年には「黄綬褒章（おうじゅほうしょう）」を受章されました。
趣　　味：クラシックを聴きながら本を読むこと
※現代の名工とは…卓越した技能者表彰制度に基づき、厚生労働大臣によって表彰された卓越した技能者の通称。

福江さんは入社後、副生ガス設備を始めとする幅広い知識と豊富な経験をもとに現場での運転や整備に従事されていました。（副生ガスとは有効な燃料である一方、爆発やガス中毒が発生する危険性が高いものです。）そのような中、自身の経験と実績に基づき、副生ガス発生工場の操業データを活用することで、製鉄所のガスバランスの予測に役立て、設備の運転と監視を安全に、かつ遠隔自動制御できるシステムを確立されました。これにより、経験の浅い人でも設備の運転・監視ができるようになりました。加えて、製鉄所の排熱回収ボイラーの改善にも携わり、省エネや地球環境の保全に貢献されています。



【黄綬褒章の褒状とメダル】

褒章とは、日本の栄典の一つで、社会や公共の福祉、文化などに貢献した者を顕彰するため、天皇陛下から授与される稀少で栄誉あるものです。（紅綬褒章（こうじゅほうしょう）、緑綬褒章（りょくじゅほうしょう）、黄綬褒章（おうじゅほうしょう）、紫綬褒章（しじゅほうしょう）、藍綬褒章（らんじゅほうしょう）、紺綬褒章（こんじゅほうしょう）の６種類が定められています）福江さんが受賞された黄綬褒章は「工業、農業、商業等の業務に精励し、他の模範となるような技術や事績を有する方」に授与される褒章です。



福江さんインタビュー

Q 副生ガス設備の運転と監視を安全に且つ遠隔自動制御できるシステムの確立等のご功績により、黄綬褒章を受章されましたが、その改善のきっかけと黄綬褒章を受賞した感想をお聞かせください。

A 私は入社後、エネルギーセンターに配属され、一般ガスの保守点検業務に従事していましたが、業務の効率化により、水・電気・蒸気の職場が統合され、様々な分野の知識が必要となりました。したがって、誰でも個人差がなくエネルギー管理ができるシステムが必要だと考え、副生ガス設備の運転と監視を安全に且つ遠隔自動制御できるシステムの確立に至りました。安全に遠隔自動操作ができるようになったとは言え、起動条件などの知識は必須であり、特にトラブル時など、最終的には人の力が必要になってくるため、後進への技能伝承が今後も重要だと考えています。

黄綬褒章を受章した感想については、和歌山県における各界の著名人が受章されている中、まさか自分が選ばれるとは思っておらず、大変光栄に思います。

Q システム構築における苦労などはどのようにして乗り越えましたか。

A 遠隔自動制御できるシステムの構築にあたっては、自分が思い描いた通りに機器が動かない事が多々あり、そのような時、職場の仲間やそれぞれの専門分野の人と協力し、知恵を出し合うことで、苦労を乗り越え新システムを確立することができました。

Q 今後、福江さんが培ってきた高度なスキルを若手へ伝承していく事が必要かと思いますが、技能伝承について職場の若手へ一言お願いします。

A まず、私が今一番やりがいを感じている事は若手への技能伝承です。昔と比べ、最近のオペレーター業務は多岐にわたる技能が必要となり、覚えることが非常に多いため苦労しているように思います。人間は頭ですべて覚えられないことから、アナログではありますが、今だからこそしっかりメモを取り、習熟をして頂きたいです。

褒章の受章は各関係省庁大臣、都道府県知事または、関係各所から褒章と章記が伝達され、その後、褒章を着用した受章者は、皇居の春秋の間および豊明殿において、天皇陛下に拝謁しますが、新型コロナウイルス感染防止の徹底を図るため、今回は仁坂和歌山県知事より授与されました。



【写真左　福江さん　授賞式の様子】

エネルギー支部の佐々木支部長コメント

この度の黄綬褒章の受賞おめでとうございます。福江さんは、あと一年足らずで再雇用満了の予定ですが、昔からトラブル時や解らない事があれば頼っています。これまで培われてきた豊富な知識や経験等の技能伝承を引き続きよろしくお願いします。今後も健康に留意され、なお一層ご活躍されることを祈念しております。

和歌山労組の年末助け合いカンパの中から、例年「釜石支援カンパ」を実施しており、先般、釜石労組よりカンパのお礼が届きましたので、ご紹介させていただきます。

２０２１年１月吉日

日本製鉄和歌山労働組合
組合長　山本　龍一　様

日本製鉄釜石労働組合
組合長　小島

東日本大震災で被災した組合員等への支援のお礼

謹啓
酷寒の候、日本製鉄和歌山労働組合におかれましては、益々ご隆盛のこととお慶び申し上げます。
さて、和歌山労働組合の皆様には、東日本大震災から今日に至るまで物心両面にわたり心温まるご支援を頂戴するとともに、昨年１２月には、組合員の皆様の心のこもった義援金を届けて戴きました。
あの大震災からもうすぐ１０年が経とうとしているにもかかわらず、このような支援を戴き感謝の気持ちでいっぱいです。
日本製鉄釜石労働組合を代表し感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

現在の釜石地域の復興状況についてお伝えさせて戴きます。
先ずインフラ整備ですが、復興道路として急ピッチで整備された三陸横断道は東北自動車道に接続され全線開通。仙台から八戸に伸びる三陸縦貫道も今年中の開通予定となりました。その交差する場所である釜石は交通の要衝となっております。復興道路は無料であるため多くの皆様に利用され釜石港からはコンテナの取扱いが飛躍的に増加し、昨年は(公社)日本港湾協会からポートオブザイヤーを受賞することが出来ました。今後は震災で途絶えた自動車の積み出しの再開にも弾みがつくものと思われます。
被災された方々の住居については、公営復興住宅は全て完工、自宅を再建される方の土地区画整理事業も完工しております。災害当初釜石地区だけで約 4200 戸あった仮設住宅も釜石のみならず岩手県内全てにおいて引き払いが完了する見込みとなりました。“行政としての復興は完了した”と言っても過言ではありません。

ハードの復興は完了しました。あとはハードを活用し人の営みをどう取り戻すかになります。街に賑わいを取り戻そうと各種イベントも企画されましたが、やはり新型コロナが影を落としました。特に復興のシンボルとなったラグビーワールドカップ釜石開催で台風により中止となったナミビアーカナダ戦を再招致する１周年記念大会、釜石祭り、仙人峠マラソン、釜石はまゆりトライアスロン等は規模の縮小や中止にせざるを得ませんでした。
また、このようなイベントなどとは別に、以前と違った環境の中で、二重ローンや高齢で生活支援が必要な方、ご家族を亡くされメンタル面でのケアが必要な方はまだまだおります。こうしたことを考えると、被災された方々の本当の生活復興にはまだ時間が必要であると思われます。何時の日か癒される日が来ることを望むばかりであります。
そうした中に於いても各地で災害が発生した時は“他人事ではない”、“ボランティアに行って何か手助けをしなければ”と思っている人が大勢おり復興に手ごたえを感じております。

釜石労働組合は、皆様から戴いた支援や激励を心の糧に全力で各種活動に取り組み、組合員および釜石地域の復興に向け一丸となって頑張る所存です。
季節柄、あわただしさが増すとともに寒さが厳しくなってきております。皆様におかれましては、ご健康に留意され益々ご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。
末筆ながら和歌山労働組合のご発展をお祈りし、略儀ながら書中をもってお礼に代えさせて戴きます。

謹白

生活総点検活動進捗状況の報告

和歌山労組は、「職場環境、労働条件、地域生活環境、国の政策制度・産業政策」などに関する課題・問題を掘り起こし、課題解決を図ることで組合員とその家族の総合的な生活改善をめざすべく、生活総点検活動を推進しています。その進捗状況を一部紹介させていただきます。

企業外案件

和歌山地区（和歌山）東門前道路（構外）は自転車と車の接触事故が多いので安全対策を実施していただきたい。


【和歌山地区(和歌山)東門前道路】


【現場説明の様子】

上記の意見が複数の組合員の皆さんから挙げられており、和歌山労組の推薦議員を通じ、行政や和歌山県警へ改善するように働きかけを行っておりました。

先日、和歌山市に改善要望の提出や現場説明を実施し、和歌山市の担当者から安全標識等の設置を検討するとの回答を得ています。

和歌山労組は、今後も皆さんからの意見・要望を精査・点検した上で改善に向け取組んでいきます。

組合員投稿コーナー

今月は、「冬の思い出」をテーマに投稿を頂きました！



ご安全に！ 小径製管支部の木村 修也です。

私の冬の思い出は、「家族とのおうち時間」です。

コロナ禍での年末年始に加え、ゆっくり休暇も取れたので、今年こそ正月らしいことを！と意気込み、年末には大掃除やおせち作り紅白を見て年を越し、正月には書初めやカルタをして、「おうち時間」を満喫しました。



娘の幼稚園には、毎年カルタ大会がありますが、昨年は当日に体調不良で参加できず悔しい思いをしました。そんなこともあり、書初めには「じしん」と「体力」と書き必死でカルタの練習していました。

結果は見事優勝！先生いわく優勝が決まった時、嬉し泣きしていたとか。一方、私は「走る」と書いたので娘を見習い頑張って走ろうと思います。